

令和5年度「長久手市役所の仕事」通知表の作成（外部評価）②

令和5年9月20日 開催概要

開催概要	
会議等の名称	令和5年度行政評価・外部評価② 「地域共生社会推進事業」【地域共生推進課】
開催日時	令和5年9月20日（水） 午後3時10分から午後4時まで
開催場所	市役所西庁舎2階 第7・8会議室
出席者氏名 （敬称略）	<外部評価実施者（行政改革推進委員）> 石橋健一、室淳子、岡崎信久、細萱健一、安立憲市 <担当課> 地域共生推進監 國信綾希 課長 嵯峨寛子 担当課長 山田美代子 <事務局> 総務部長 加藤英之、総務部次長 福岡隆也、 行政課長 若杉雅弥、課長補佐 水草純、庶務係長 佐藤雄亮
傍聴者人数	1人
問合せ先	長久手市総務部行政課 0561-56-0605
備考	

外部評価実施者の 質疑、意見等	<p>（委員）</p> <p>最終ゴール「役割と居場所」とは何か。そこがぼやけると、やることも定まってこない。改めて周知が必要ではないか。</p> <p>⇒本市は総合計画の将来像として、市民一人ひとりが地域に役割と居場所を持ち、お互い助け合い支え合うことが重要と掲げている。普段支えられる立場にいる人も、支える側に回ると、居場所を感じることができ、生きがい生まれる。</p> <p>（委員）</p> <p>どのコミュニティにも属していない人に居場所や人とのつながりを持ってもらうことは難しいと思うが、どうか。</p> <p>⇒どういった状態を心地よいと思うか、どんな役割を担うことができるかは、人それぞれ違う。地域課題の解決を地域の人と急にやっていくのは難しいので、まずは関係づくりを進めるべき</p>
--------------------	---

と考える。市役所からの働きかけにより、市民がやっていることの意味を伝え、役割やつながりの体感をしていただく。

(委員)

社協と市の役割分担はどのようなか。

⇒あえて明確な線引きはせず、福祉の専門家（社協）と市の仕組みを知っている者（市職員）の視点を掛け合わせるため、互いに協力し合って一緒に活動している。

(委員)

事業の具体的な内容を説明してほしい。

⇒まず、相談支援として、複合的な問題や、制度の狭間となる問題を抱えている人を支援するため、多機関連携の調整等を行っている。

次に、参加支援の事例として、社協にNジョイを設置している。長久手には引きこもり支援のための窓口がなかったが、社会参加の第一歩となる居場所として窓口を作った。

次に、地域づくり支援として、まちづくり協議会や地域と信頼関係を作り、地域の課題を解決するためのプラットフォームづくりを実施している。

また、三ヶ峯ニュータウンは高齢化、独居化により移動手段の課題を抱えている。市は、この地域の移動支援を行うため、ボランティアドライバーのマッチングを行った。利用者と運転者での交流にもつながっている。

(委員)

この事業は幅が広いどころか枠がない。今は土台作りで良くても、広げていくと人手や予算が足りなくなる。外部委託やデジタル化等で省人化できれば良いが。

⇒今は試行錯誤しながら、やれることから少しずつ行っている。

職員間で曼荼羅チャートの価値観が共有され。信頼関係が築けていないと、事業はうまく回らない。

	<p>(委員)</p> <p>本事業とまちづくり協議会は似たようなことをやっている。地域と市が別々で動いてはいけない。まちづくり協議会の担当はたつせがある課のため、動き方を整理しないと、せっかくのまとまりが壊れてしまう。どのようにすり合わせるのか。</p> <p>⇒まちづくり協議会や自治会連合会とは、信頼関係を作るためにそれぞれとコミュニケーションを取っている。行政が受け取った情報と地域の人が受け取った情報は同一ではないので、それらを掛け合わせていければ良いと考えている。</p>
--	--

<p>講評・まとめ</p>	<p>事業内容が他機関と重複しているところがあるが、それぞれ視点が違うため、コーディネーター役が重要である。</p> <p>担当職員について、今は同じ方向を向き熱量を持って事業を進めていても、いずれ形骸化していつてしまうため、熱量を持続させていくための人材育成が課題である。</p> <p>この事業は、地域の人が愛着をもってもらうための方策ととることができる。長久手は、ジブリパーク等の有用な資源を持っている。その資源を活用しながら次世代まで愛着をもてるようにしてほしい。</p>
---------------	--